

大阪市 中教研会報

No.150

編集者 大阪市立中学校教育研究会

発行人 大阪市立中学校教育研究会

会長 大政和彦

発行所 大阪市立中学校教育研究会

大阪市立宮原中学校

TEL 06-6394-2455

大阪市からの教育改革

—コネクト×ドライブ=探究—



大阪市立中学校長会

会長 高橋 哲也

約十年に一度の学習指導要領改訂が、いよいよ現実のものとして可視化されてきました。情報量は多く、すべてを網羅することは容易ではありません。しかしながら、令和6年12月文部科学省から中央教育審議会教育課程企画部会（中教審）への『諮問』（全文5ページ）や、それに対する『論点整理』（令和7年9月）に目を通すとともに、8月1日には、文部科学省 武藤 久慶 教育課程課長の講義を、11月27日には中教研全体研修会で、文部科学省初等中等教育局の 田村 学 主任視学官の講義を会員の皆さまとともに、直接、お聞きする機会を得たことは、大きな学びとなりました。国の教育の舵取りをされているトップリーダーのお二人、行政の立場から、教員現場の立場からと、それぞれの立場は違っても、すべては「子どもたちのためにより良い教育を」という一点に集約されていたお話でした。

このお二人のお話もふまえ、私たち教員が主体的な姿勢で、新しい学習指導要領の告示を迎えたいと思います。そして、柔軟な発想とアイデアをもとに叡智を結集し、大阪市で学ぶ子どもたちに豊かな学びを提供していくことが求められています。年間1015時間の確実な履行、各教科の基準時間の確保とともに、『総合的読解力育成カリキュラム』の実施など、難しい条件が重なる中でも、最適解を導き出す努力を重ね、大阪市の実践を全国へ発信していければ、素晴らしい事かと思えます。

創意工夫された授業を、生徒たちは待ち望み、保護者も期待しています。大阪市で教鞭をとることに誇りとプライドを持ち、そして、切磋琢磨し、授業で勝負できる教育のプロとして、実践と研究を往還させながら、普遍性ある理論へと高めていきましょう。

学習において、知識の習得は欠かせません。田村先生からは『コネクト』、知識と知識をつなぐこと。『ドライブ』、知識を活性化させ、新たな課題に挑むことのお話がありました。そして、『探究』の学習を通して、学力を確かなものにしていく。生徒たちのみならず、私たち自身が仲間と議論し、時には自分自身と対話しながら、深い学びの世界を子どもたちと共に創っていきたいと思います。大阪市立中学校教育研究会の益々の発展と、会員の皆さまの益々のご活躍を心より祈念し、結びといたします。

多様な子どもたちの 深い学びを確かなものに



大阪市立中学校教育研究会

会長 大政 和彦

今年度も「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成」～ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力～をテーマに研究活動を進めてまいりました。各研究部・各ブロックでも、このテーマの実現に向けて研究を進めていただきました。ブロック研究発表や全市研究発表会において多くの会員が積極的に参加していただき、公開授業や研究発表・研究協議等を実施することで大きな成果をあげることができました。実施していただきましたブロック委員長、研究部長の皆様をはじめ関係の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、社会は急速に変化し、AIやデジタル技術の進展、環境問題、グローバル化など、子どもたちが直面する課題は複雑さを増しています。これまで、テーマに沿って、ウェルビーイングを大切にしながら、探究的な学びを通じて課題解決力を育み、総合的読解力を基盤として情報を正しく活用できる人材を育てる研究を進めてきました。次期学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」「情報活用能力の育成」「多様性の尊重」といった理念と重なり合うもので、子どもたちが未来社会の創り手として成長するために、これまでの教育実践の成果を活用しながら、今後も研究を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、本年度もご尽力いただいた各ブロック委員長様・各研究部長様、専門委員・会員の皆様へ深く感謝申し上げます。また、大阪市教育委員会、大阪市総合教育センターの皆様には温かいご指導・ご助言を賜り、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

部門より研究活動・成果について

国語部

「生きる力」としての国語力の育成

—自分の思いや考えを深める言語活動の充実—

堀田千秋 (日本橋中学校)

- 各ブロック研究会では、以下の通り集合研修を行った。
 - 第1・2教育ブロック合同：「子どもたちの現状を踏まえた読書指導の提案」
姫路大学 教授 長谷 浩也 先生
 - 第3教育ブロック：「書写指導教育の充実のために ～基本実技研修～」
今宮中学校 主務教諭 武生 京子 先生
 - 第4教育ブロック：「楽しく古典学習を進めるにあたっての実践と工夫」
同志社大学 准教授 三宅 宏幸 先生
- 大阪市中学校文化連盟・大阪市立中学校教育研究会合同で以下の通り講習会を行った。
 - ・第22回 生徒のための書写講習会
 - ・第9回 生徒のための篆刻講習会
- 全市研究発表会
 1. 大阪市立花乃井中学校を会場として、同校 青山 佳代 主務教諭による「主人公は一体だれなのか？物語の行間を楽しもう」を目標とした「セミロングホームルーム」（戸森しるこ『三省堂 現代の国語2』）の授業を公開した。生徒が主体的・対話的に学びに向かう姿を体現できる授業となった。特に、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることや目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができるよう、視覚的なツールを有効活用しながら、学び合う授業が展開された。本研究発表会のアンケートでは指導案をもとに実際の授業案の作り方など、丁寧な発表内容に対する肯定的な意見も多かった。今後も、国語科教員の授業研究のヒントになるような実践の交流を進めていきたい。
 2. 大阪教育大学 住田 勝 教授による講演をいただいた。物語文の教材研究をするうえで、重要なこととして「題名（タイトル）」「冒頭と結末」「人物像」の3点を提示された。さらに、「教材間のつながりを意識させること」を挙げられ、既習事項を結び付けて研究することが不可欠だとのことご教示いただいた。
- 第64回 政令指定都市中学校国語教育研究協議会 仙台大会への参加
令和8年度 同研究協議会は大阪大会の予定

社会部

一人ひとりの未来につながる社会科の創造

～問い・探究、そして参画へ～

渡辺慶人 (八阪中学校)

- ・今年度は、第58回全国中学校社会科教育研究大会並びに第31回近畿中学校社会科教育研究大会、大阪大会を令和7年11月13日(木)14日(金)に開催した。
- 13日には、大会研究部長の大阪市立長吉西中学校、川村 由美子指導教諭が基調提案を行った。その後、「アフター万博におけるこれからの外食産業」という演題で、千房株式会社 代表取締役社長 中井 貫二 様による記念講演が行われた。
- 14日には、大阪市としては、3分野、それぞれ1本ずつの授業実践を行った。
 - 〔地理的分野〕大阪市立大桐中学校 小 谷 彩 花 教諭 ビデオ視聴による提案
指導助言：龍谷大学 中 本 和 彦 教授
 - 〔歴史的分野〕大阪市立大正中央中学校 寺 井 和 弘 指導教諭 公開授業による提案
指導助言：大阪教育大学 峯 明 秀 理事・副学長
 - 〔公民的分野〕大阪市立天王寺中学校 大 島 翔 太 教諭 公開授業による提案
指導助言：大阪教育大学 手 取 義 宏 教授
- 3分野共、研究討議も活発に行われ、事後アンケートは高い評価をいただいた。
- ・大阪市中央公会堂で開催された大阪市立中学校総合文化祭に参加し作品展示を行った。
- ・北方領土問題教育指導者研究大会、北方領土青少年等現地研修会、北方領土近畿ブロック研修会に参加し、北方領土に関する見識を広めた。
- ・副読本「おおさか環境科」の編集委員会・編集部会に参加し、教材開発に携わった。
- ・会誌「社会科通信」を発行し、全校に発信する予定。
- ※今年度は全市研究発表、各ブロック研究発表会は全国大会に兼ねるということにした。

数学部

未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして

吉次憲保 (梅南中学校)

- ・数学部では、今年度の研究主題を「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」として取り組んだ。
- ・8月、全国算数・数学教育研究(石川)大会にリモート参加した。
- ・8月28日、市岡東中学校を会場として、ブロック研究発表会を全ブロック合同研修会として開催した。大阪市

総合教育センター 指導主事 鶴飼先生から、Canva へのアクセス・指導者用 コンテンツライブラリー・デジタル教科書の QR コード・クラスルームの作成例など、1 台端末を活用した ICT 機器の実践例の紹介をしていただいた。その後、ブロックごとにわかれ数学科教員による情報交換会を行った。近隣校の教員同士が交流を図り、日ごろの悩みや指導法について共有できたことは大変有意義であった。

- 10月8日、梅南中学校を会場として、全市研究発表会を開催した。東三国中学校速見先生、田島中学校 植本先生、歌島中学校 内藤先生による8本の公開授業と熊本大学 大学院 教育学研究科 准教授 吉村先生の「これから求められる算数・数学の授業づくりについて」を演題とした講演を実施した。公開授業では、これまでの数学部研究の伝統を継承しつつ、ICT機器を活用したり、「主体的・対話的で深い学び」となる授業形態を行ったりすることができた。いずれも、数学部として、大切にされてきた丁寧な授業づくりの研究や、成果を積みあげた内容であった。
- 11月、近畿算数・数学研究（和歌山）大会に参加した。
- 研究発表会に参加していただいた皆様のご意見を、Google Forms で作成したアンケートにて集約した。今後、成果と課題を分析し、大阪市中学校数学教育のさらなる発展に取り組んでまいります。

理科部

理科の見方・考え方を働かせて、 未来を創造する資質・能力を育む理科教育

谷 塚 高 雅（加美中学校）

- 今年度も、研究主題を「教員研修グループ」と「調査研究グループ」の2つのグループに分担し、それぞれの研究を進めました。
- 全市研究発表会は、桜宮中学校において実施されました。研究主題「理科の見方・考え方を働かせて、未来を創造する資質・能力を育む理科教育」のもと、地学（気象）分野において、「気象予報士になろう！」をテーマとした公開授業が行われました。授業では、生徒たちが天気図を読み取ることにとどまらず、その内容をどのような根拠で説明するのか、また相手に分かりやすく伝えるためにはどのような表現が適切かを振り返りながら学習を進めていました。こうした活動を通して、生徒たちは理科の見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ姿を見せており、研究主題の実現につながる実践となりました。
- ブロック研究発表会では、4つのブロック（第1ブロック：自然史博物館、第2ブロック：咲くやこの花館、第3ブロック：科学技術館、第4ブロック：天王寺動物園）に分かれて、各ブロックで講師を招いて研修会を実施しました。研修後のアンケートでは、多くの参加者から授業改善のヒントとなったとの意見があり、好評を得ました。
- 生徒理科研究発表会では、夏休みの自由研究課題や部活動（理科部・科学クラブ）の研究結果を発表しました。「プレゼンテーションの部」「発明工作の部」「実験・研究の部」の3部門で発表が行われ、優秀な作品や発表は、大阪市立中学校総合文化祭や大阪府学生科学賞に出展されました。生徒たちはテーマに基づいた探究活動を深め、課題解決力や論理的思考力を育むことができました。また、自らの興味関心に基づいた研究を進める経験は、主体的な学びへの意欲を高め、未来を見据えた資質・能力の育成につながりました。
- 理科教員観察実習研修では、地学分野の研修として岡山県指定天然記念物である井倉洞の見学および、武田石材店での研修を実施しました。本研修を通して、岩石や鉱物が建築材料として、私たちの身近な生活の中で幅広く活用されていることを改めて理解することができました。また、これまで学習してきた内容が、実際の生活の場と結びつくことで「知識が見えるようになる」楽しさを実感できる機会となりました。これらの経験により、理科の学びをより身近で意味あるものとして捉える視点を養うことができ、教員の授業力向上につながる有意義な研修となりました。
- 全国中学校理科教育研究発表会北海道大会には、4名の教員が参加しました。「教育課程」「学習指導・評価」「観察・実験」「環境教育」についての研究発表や研究協議会に参加し、その成果を全市研究発表会で報告しました。

音楽部

音楽的な見方・考え方を働かせ、感性をはぐくむ音楽教育

－主体的・対話的で深い学びの実現に向けて－

安 藤 寛（大領中学校）

- 令和6年度より研究主題を一新し、音楽科教員の授業力・指導力の向上について、次の3つの視点で研究を推進した。①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ②生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識や、音楽文化についての理解を深める学習の充実 ③授業改善のための指導と評価の一体化。
- ブロック研究発表会では、8つのブロックに分かれ8本の公開授業を行い、その後それぞれで活発な研究協議が行われ、交流を持つことができた。
- 夏季研修会では、大阪府中学校音楽教育研究会と共催し、8月4日に夕陽丘高等学校ヴィオラホールで行った。夕陽丘高等学校音楽科の皆さんによるオープニング演奏の後、「歌舞伎の実技研修」と題し関西伝統芸能女流振興会 向平 美希先生、「音楽的な見方・考え方を働かせた音楽科の学習の充実に向けて」と題し文部科学省教科調査官 河合 紳和先生よりご講和いただいた。
- 全市研究発表会では、大阪市立中之島中学校 姜 恵貞先生が「曲想の変化を生かして歌唱表現を工夫しよう」と題し歌唱の公開授業を行った。旋律、強弱、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら知覚したことと、感受したことの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫していた。
- 今後はより研究体制を組織化し、1学校1人の多い音楽科で年次にあった情報共有、研究、研修ができるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

英語部

4 技能 5 領域の総合的な能力向上

～2025 大阪万博でコミュニケーションが取れる生徒の育成をめざして～

田野原 千佳 (新豊崎中学校)

- ・今年度のブロック研究会では、「デジタル教科書の効果的な活用方法」について、教科書発行者より説明を行っていただいた。その後、各校の取組について活発な意見交換が行われた。
- ・市長杯中学生英語暗唱大会・スピーチ発表会は、今年度も矢田南中学校を会場として開催することができた。暗唱大会には12名、スピーチ発表会には7名が出席し、工夫を凝らした素晴らしい英語暗唱とスピーチ発表があり、日頃の英語学習の成果を見ることができた。
- ・全市研究発表会では、「ジグソーリーディングとリテラチャーサークルの活用」と題し公開授業を行い、その後、愛媛大学 立松 大祐 教授よりご指導をいただいた。また、昨年度に引き続き当日の資料については、Teams で事前共有したり、授業の感想や質問等を Forms に入力してもらったりなど、スムーズに研究協議を進めることができた。
- ・English Festival は今年度より「大阪市立中学校総合文化祭 ～展示発表部門～」にて7校が作品を出展し、「市長杯英語暗唱大会」受賞者の暗唱の映像を会場で流した。多くの見学者が来場し、作品を楽しんでみていただけた。
- ・がんばる先生支援事業を活用し、全英連全国大会（和歌山大会）の報告会や、NHK LEAD 実践校（3校）の実践報告を3学期に行う予定である。
- ・今年度より中教研英語部主催の研修会を3回実施することができた。次年度以降も引き続き活動を実施していく。
- ・専門委員の活動を通して、全市的な研究活動、教材や指導法の情報共有、研修等の機会を持つことができた。

* * * * *

道徳部

多面的・多角的な視点で考え議論する道徳教育の創造

-グループワークを取り入れ言語力を育てる道徳科授業づくり-

神田 敏生 (夕陽丘中学校)

今年度は土曜学習会を5回・道徳教育推進委員会を3回開催できた。また、全市研究発表会を令和7年度文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」による研究校の発表会と兼ね、公開授業を実施できた。

全市研究発表会では、公開授業の後に実施した研究協議会の全体会において、冒頭に授業者より公開授業について、これまでの取り組みや授業後の振り返りを行った。

研究協議を行う前には、大阪市立中学校教育研究会道徳部が研究を進めている「授業づくりのポイント」について、パワーポイントを用いて説明し、参加された方々にとって日々の道徳科の授業づくりの手立てとなるように努めた。

その後のグループ毎に分かれての研究協議会では、実施した公開授業の「良かった点」や「改善点」に加え、各校で行っているグループワークの実情や工夫している点、課題としている点等について、活発な意見交流を実施できた。そして、各グループで話し合った内容についての発表を行い、参加者全員で皆さんの意見を共有できたことは良かった。

また、令和7年度文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」による道徳教育研究校1校・道徳教育推進拠点校4校においては、校内研修会・小中合同研修会・小中相互参観授業・公開授業に取り組んでいただき、各校とも「触発者」の視点で教材を深めるペアワークやグループワークを取り入れた「主体的・対話的で深い学び」にもとづく授業展開の実践がみられた。

今後は、今年度より教科書が新しくなったことに伴い、新しい教科書に対応している「学習指導案集」を発行し、各中学校へ配布する予定である。

* * * * *

特別活動部

生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造

進藤 文代 (墨江丘中学校)

特別活動部では「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という資質・能力を生徒一人ひとりが自ら身につけていくことが大切であるという考えから、「生徒会活動を中心とする特別活動」と「キャリア教育をはじめとする進路指導」の二本柱で取り組みを推進してきた。

全市研究発表会では、前半は全国進路指導・キャリア教育研究大会報告、OENの職業体験・講話、後半はe スタジアムなんばの施設見学およびキャリア教育体験・講話をおこなった。全国進路指導・キャリア教育研究大会報告では、白鷺中学校・江角俊幸教頭が、「小中高一貫したキャリア教育の在り方」として、筑波大学の藤田晃之 教授が危惧する日本の子どもの学習意欲の低下や、受験終了後に「知が剥落する」ことから、将来の見通しを立てて、キャリアパスポートを活用することの重要性を再確認した。また、東京都葛飾区立四ツ木中学校のキャリア教育の実践事例として、「日常の授業」から身につけたい力を明示することや、デジタル版学習ノート(Google classroom)を用いた振り返り、地域の方々に特別授業をしていただく「外部人材の活用」が紹介された。

OENの職業体験・講話では、大阪市総合教育センター山本昌平指導主事が、「OEN～各校園の教育課題の解決に向けた産官学の連携を進めるネットワーク～」の実践事例紹介として、「天王寺動物園のズー・スクール」

や「アルバモス大阪のプロ選手によるハンドボール体験」など、OENに登録している複数の企業や大学との連携が可能であることを紹介していただいた。

後半は、eスタジアムなんば経営企画室地域支援室長の山本和幸氏より、eスタジアムなんばでのキャリア教育体験および施設紹介をしていただいた。eスポーツは「コンピューターゲーム（遊び）」というイメージがあるが、「競技性」があることから、「スポーツ」として分類される。そのため、「非認知能力（コミュニケーション能力やメンタルコントロールなど）の育成」「キャリア教育効果」「進路への新たな切り口」という、中学校の課外学習の場として、また自治体・企業が抱える社会課題の解決のフィールドとしても活用されている。また、大阪市立心和中学校とも共同し、eスタジアムなんば本店で実施される課外学習に参加すると、出席日数として認定されるという日本初の試みも紹介された。また、隣接するヒーローエッグでの講話では、メタバース空間を、防災学習に活用することや、語学学習に繋げる取組みも紹介された。

参加者アンケートでは、OENを活用したいという意見やメタバースの教育的利用方法を考えるきっかけになったという意見が多数あり、今後のキャリア教育の発展につながる大変良い機会になったと考えられる。

今後も特別活動部では、さまざまな実践事例をもとに、生徒会活動とキャリア教育の視点から特別活動の研究を進める取組みを推進していきたい。

生活指導部

多様な学びの場の実態と効果に関する研究

—不登校生徒の学びを支える新たな選択肢の探求—

古川 修 (平野北中学校)

<第一部>

○心和中学校の校内見学

<第二部>

○講演 1

「心和中学校の現状と今後について」 大阪市立心和中学校 盛岡 栄市 校長

○講演 2

「登校支援『なごみ』の運営と大阪市の不登校支援について」

大阪市教育委員会事務局指導部教育活動支援担当生活指導グループ

首席指導主事 小野寺 健 様

指導主事 成山 浩一 様

今年度は二部構成で研究発表会を開催した。第一部では自由散策という形で心和中学校校内を見学させていただいた。心和中学校 吉澤 雄 副校長より見学における注意点として、授業中であるということと、生徒の事情を配慮した見学（例えば、笑顔で見学することや怖い顔で児童生徒を見ないようにするなど。）を心がけていただきたいと伝えた。また、心和中学校の事情も考慮し、写真撮影などは控えていただくように伝えた。

第二部では、講演1として心和中学校 盛岡栄市 校長より「心和中学校の現状と今後について」と題してご講演いただき、心和中学校の現状や特色、今後の展望などについてお話しいただいた。次に講演2として首席指導主事 小野寺 健 様が公務のため欠席となり、代わりに成山浩一 指導主事が「登校支援『なごみ』の運営と大阪市の不登校支援について」と題してご講演いただき、心和中学校をはじめ、教育支援センターの紹介、校内教育支援ルーム（SSR：スペシャルサポートルーム）の設置等、大阪市の登校支援に関するお話しをしていただいた。

大会後のアンケートでは、「内容は、有意義で今後役に立つものでしたか？」に対して肯定的回答は100%であった。

自由記述欄には「現状の教育課題に対する理解と、先進的な教育活動を知る機会を提供していただき、深く感謝しています。これらの手法は、現場の教員たちにとって『使わない手はない』と思えるほどの画期的なものになるのではないのでしょうか。今後も先進的な教育活動の手法を研鑽し、広く共有していただけることを期待しております。」「不登校支援に関して教職員の意識がバラバラで、自分自身の方向性も確信できるものではなかったので参加させていただき、少し目指すところがはっきりしたと思います。」など肯定的な回答を多くいただいた。

特別支援教育部

子どもたち一人一人が、共に学びに向かい

生きる力を育む教育をめざして

鹿嶽 昌彦 (弘済中学校)

研究活動について

・第62回近畿特別支援教育連絡協議会京都府大会

発表 様々な特性のある生徒が小集団で一緒に学ぶための取組

大阪市立文の里中学校 高木 加菜子 先生

・全市研究発表会

発表 1. 「子ども理解・環境把握から拓く特別支援教育」

大阪市立 董 中学校 森 脇 敬 太 先生

発表 2. 「新北野中学校の通級指導の様子」

大阪市立新北野中学校 澤 田 武 志 先生

を花乃井中学校よりTeams 配信で実施。小教研特別支援教育部を通じて小学校にも参加の呼びかけを行い数名参加。

・第64回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会

数名で参加し、全国の取り組みや国の動向など知見を深めた。

・インクルーシブ研修会

第1回 令和7年7月4日(金)

会場 大阪市立花乃井中学校 (Teams でも同時に配信)

内容 キャリア教育を見据えた自立活動の研究

～大阪市職業指導センター見学・体験の紹介～

第2回 令和7年12月9日(火)

会場 大阪市立花乃井中学校 (Teams でも同時に配信)

内容 全国特別支援教育研究連盟全国大会 北海道大会 報告

大阪市職業指導センター見学・体験よりキャリア教育を見据えた自立活動

交流行事について

- ・大阪市中学校特別支援教育担任者会と協力して全市の行事が開催された。合同うんどう会(5月29日(木))長居第2陸上競技場)、ふれあいデイキャンプ(11月10日、12日、13日 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター(アミティ舞洲))、生徒作品展(1月22日～28日:予定) 大阪市舞洲障がい者スポーツセンターで開催。

その他

- ・小教研特別支援教育部と合同で、支援を要する子どものキャリア教育について、特別支援教育部・担任者会小中合同研修会として施設見学と事業説明を現地とオンラインで実施した。

* * * * *

保健養護部

養護教諭の専門性と資質の向上をめざして

河原 亜紀 (加美南中学校)

研究主題に基づき、各ブロックにおいて共同研究を行い、また学習会とスキルアップ研修会を開催した。

- ・全市研究発表会では第1教育ブロック(a此花区・港区・西淀川区)が「誰もが安全安心な学校生活を送るために～養護教諭だからこそできる! 性の多様性に関する視点から～」をテーマに共同研究発表を行った。社会全体で性の多様性への理解が進む中、教育現場においても対応が課題となっていることから、養護教諭としての役割や具体的な支援方法について情報交換をかさねた。その過程で、養護教諭だけでなく学校全体で取り組むべきことが多いという課題が明らかになった。研究課程では、学校生活における男女区別の実態とその必要性を見直し、改善点を整理した。その結果、健康診断の方法を見直すなど、具体的な改善につながった。また、養護教諭が性の多様性に関する知識を深めたことで教職員研修が充実し、校内の理解が広がった。これらの取組により、保健教育の充実や教職員・生徒の理解の向上が見られるようになり、学校全体としてより安全・安心に過ごせる環境づくりが進んだことを実感している。さらに、教職員の理解が深まったことで、養護教諭に対しては、生徒対応や、学級経営、泊を伴う行事における生徒への配慮事項についての相談や意見を求められる機会も増え、学校全体での性の多様性に配慮した取組が広がりつつある。
- ・学習会では、「多様な学びを必要とする生徒への支援を考える」をテーマに実施した。令和6年度に「学びの多様化学校」として開校された心和中学校の校内見学、ならびに講話を通して、多様な学びを必要とする生徒への支援について理解を深めた。多様な背景やニーズをもつ生徒に対し、学校全体で理解を共有し、柔軟かつ継続的な支援につなげることの大切さを学ぶ機会となった。

講師 大阪市立心和中中学校 校長 盛岡 栄市先生

登校支援室なごみ 登校支援室アドバイザー 津本 ひふみ 様

大阪市立心和中中学校 主務養護教諭 間戸場 弥生先生

- ・スキルアップ研修会では、経験の浅い養護教諭を対象に、「学校保健委員会について学ぼう」をテーマに、各校で実際に行われている取組を紹介しながら、学校保健委員会について理解を深めた。

* * * * *

教育メディア部

「生きる力」と「感動する心」をはぐくむ教育メディアの研究

～学校図書館、放送・視聴覚教育を通して～

西堂 良紀 (住吉中学校)

本研究部では、研究主題にもとづき、図書館教育部門と放送・視聴覚教育部門に分かれて活動を進めている。

図書館教育部門では、ブロック研究会で、各校での図書館教育にかかる取組について意見交流するとともに、「大阪市青少年読書感想文コンクール」「大阪市読書感想画コンクール」の準備を進めた。さらに、「大阪府・大阪市合同図書館研究集会」では、主体的・対話的で深い学びの学校図書館のあり方について実践発表を行った。今後も、読書指導、情報活用能力の育成、探究学習の支援を中心に研究を進める必要がある。

放送・視聴覚教育部門では、7月に「第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト大阪大会」の企画・運営を行い、朗読・アナウンス部門等において、優れた発表を選出した。

また、全市研究発表会では、「授業時における生成AIの効果的な活用」をテーマとした理科の実践報告を行った。その際のグループ協議は、Padletというアプリを活用し、参加者が自身の端末から発表中に質問等を入力することにより、発表者がリアルタイムで回答する形式で進めた。参加者からの主体的に質問等を入力する量から、有意義な協議となっている様子が見られた。

生成AIを活用することにより、生徒は短時間で知りたい情報にたどり着き、生成AIの便利さと視覚的情報の伝わりやすさを実感できると考える。一方で、生成AIからの想定外な回答への対応やファクトチェックの必要性に課題があることから、教員が「何のために、どのような力をつけさせたいか」を意識した図書館教育、放送・視聴覚教育を展開できるよう、引き続き研究を進める。

ブロックより研究活動・成果について

第1ブロック

変化の時代をしなやかに生き抜く力の育成

— 探求と共創で未来を拓く教育実践 —

鍋 谷 賀 都 緒 (市岡東中学校)

研究活動においては、生徒が自ら課題を見つけ、深く考察する「探求」を促す指導法の検討に重点が置かれた。学びの深化のためには「問うこと」の姿勢が不可欠であることが強調され、現代の諸課題と過去の課題を結びつける単元構成や、社会をよりよく変えていこうとする生徒を「チェンジメーカー」として位置づける実践が議論された。

同時に、教員や生徒同士が連携し、多様な意見を交換する「共創」の場を意図的に設定する工夫が多く見られた。公開授業や研究討議を通じて、ペアワークを通じた発言機会の確保、グループワークの活用、異学年交流を通じた学びの質の向上など、「共創」的な学びを実現するための具体的な指導法が共有された。

これらの「探求」と「共創」を支える基盤として、ICTの活用が多く部門で実践された。1人1台端末を活用した実践例や、情報共有を促すデジタルツールの利用法について深く学び、教員のICT活用能力向上を目指した学習会も実施された。

また、ディスレクシアを含む多様な子どもへの対応の重要性、不登校生徒の学びを支える新たな選択肢の探求、医療的ケアが必要な生徒の中学校生活の実態など、多様な学習環境や生徒の状況に応じた課題にも真摯に取り組んだ。

ブロック研究発表会や様々な研修会を通じて、参加者は他校の実践や最新の知見に触れることができ、社会の変化に対応できる資質・能力の育成を目指し、研鑽を深めることができた。ご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申しあげる。

第2ブロック

主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造

— 「つながり」を生かした学びの場を通して —

稲 谷 哲 也 (緑中学校)

第2ブロックは、一昨年度から継続した研究テーマをきっかけ、各部門が主題を設定し、研究活動を行った。

ブロック研究発表会は、8月27日を基準日として開催し、この日は8部門が公開授業や研究発表、見学会や講演会を行い、参加者による活発な意見交流や情報交換、著名な講師による示唆に富んだ問題提起や情報提供を通して、翌日からの教育活動や研究活動に生かせる多くの気づきと学びを得ることができた。

多様性を認める子どもたちが集い、教室が問いを聞き合える優しい空間であることを目指して、今後も教職員間で活発に交流しあえる研究活動でありたい。

第3ブロック

豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成

— 新しい未来の姿を構想した実践交流 —

脇 田 将 明 (大正北中学校)

○ブロックの研究主題をもとに各部門の研究主題を設定し、研究方法・内容・役割を決め、研究活動を推進した。

○8月27日を基準日とし、「ブロック研究発表会」を実施し、部門ごとに教員の情報交換・共有を行った。情報交換では、それぞれの学校での取組等を出し合い、授業力や指導力の向上につなげられる良い機会となった。

○来年度に向けて、研究主題の見直しを行い、各部門の今日的な教育課題を解決できるよう、ブロック研究発表会をさらに充実させていきたい。

第4ブロック

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための資質・能力の育成

～ 全ての人の可能性を引き出す教育の創造 ～

今 垣 清 彦 (田島中学校)

本ブロックは研究主題「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための資質・能力の育成～全ての人の可能性を引き出す教育の創造～」を掲げ、8月28日を基準日として、ブロック研究発表会を実施しました。

大学や企業、総合教育センター、教育委員会から講師や指導助言者を招いての公開授業や指導方法研修会、施設見学・体験的研修、情報交換、生徒会交流会など、多くの有意義な取り組みが実施され、特に若手教員にとっては貴重な情報交換と学びの場になりました。各部門において、コロナ禍で対面できなかった時期を乗り越え、年々、会って学ぶことの重要性やブロック単位だからこそできる学びやその良さを感じることができたようです。

今後も全ての人の可能性を引き出す教育の創造のために、教職員間の協働的な学びが広がる活動にしていきたいです。

令和 7 年度 大阪市立中学校教育研究会 評議員会記録

第 5 回 評議員会

令和 7 年 11 月 27 日 (木)
於:大阪市総合教育センター
10階 1002研修室

- (1) 学校給食・食育部設置にあたって
(2) ブロック研究発表会・全市研究発表会について
(3) 年間計画・今後の研究活動について
(4) 研究集録『研究の歩み』について
(5) その他
① 小中一貫教育委員会実施について
② 会計事務連絡
③ 連絡事項

第 6 回 評議員会

令和 8 年 1 月 23 日 (金)
於:大阪市総合教育センター
9 階 905研修室

- (1) 本年度のまとめ
(2) 本年度会計について
(3) 令和 8 年度の研究活動について
(4) その他
① 来年度の日程について
② 中教研会報について
③ 本部役員選考委員会について
④ 中教研組織構成等について
⑤ ホームページの ID およびパスワードについて
(5) 評議員研修会

「中学校教育研究会に期待すること」
- 2040 OSAKA Well-Being -

大阪市教育委員会事務局
指導部長 中 道 篤 史 様

令和 8 年度の日程

- 中 教 研 全 体 会 …… 5 月 20 日 (水)
ブ ロ ッ ク 研 究 発 表 会 実 施 基 準 日 …… 8 月 26 日 (水) ・ 27 日 (木)
全 市 研 究 発 表 会 …… 10 月 14 日 (水)
全 体 研 修 会 …… 11 月 12 日 (木)
評 議 員 研 修 会 …… 1 月 22 日 (金)

ブロック研究発表会・全市研究発表会の開始時間につきましては、14時以降で予定しています。

【大阪市立中学校教育研究会は、本年度（令和7年度）、公益財団法人 日本教育公務員弘済会大阪支部より研究助成を受けて研究活動を行っております。】

令和 7 年度 大阪府立中学校教育研究会・全体研修会

令和 7 年 11 月 27 日 (木)

於：大阪市総合教育センター

「主体的・対話的で深い学び」を改めて考える

－ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 －

文部科学省初等中等教育局

主任視学官 田村

学様

【教育課程の基準の改訂】

① 学習指導要領の「構造化」

植物などの具体例を挙げながら、知識は階層構造になっており、複数の知識をつなげていくことの大切さについて説明があった。



学習指導要領を構造化すれば、要素や関係性が見え、俯瞰してとらえることができる。

→「タテ・ヨコの関係」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくなる。中学校の数学を例に説明があった。

② 「柔軟」な教育課程編成

目黒区や渋谷区で取り組まれている授業時間の弾力的運用の実例を用いて、柔軟な教育課程編成や今後の方向性などについて紹介された。



各学校で実施しているカリキュラム・マネジメントが本格化し、学校の特徴や固有性などを発揮することができる。

③ 「探究」の質的向上

探究は、情報活用能力と一体的に育成していく。

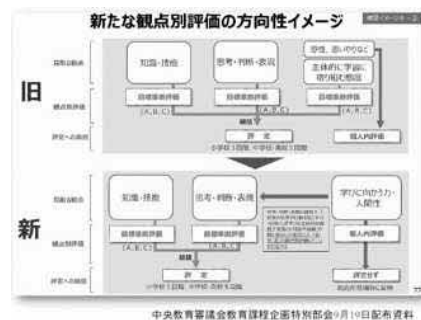
探究に関しては、今回の改訂のメインテーマでもある。中学校の探究をどうするかは大きな鍵となってくる。



「質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み」について説明があった。

④ 学習「評価」

今まで行ってきた目標に準拠した観点別学習状況の評価は、今後も維持していく。そのような中で、「主体的に学習に取り組む態度」に対する評価を行わないと誤解されている。



現在では「ねばり強く」が強調されてしまっているが、「初発的な思考や行動を起こす力（自分でチャレンジする態度）」や「他者と協働する態度」、「自分の思考や行動を客観的に把握し認

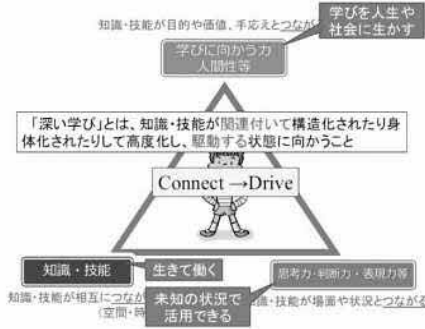


識（メタ認知）する力」なども評価していくことが大切である。

→個人内評価になるので、評定に反映されにくくなるといった問題もあり、議論されている。

【資質・能力の育成（「主体的・対話的で深い学び」）など】

・授業をする教師が「深い学び」に対するイメージを持つ努力をするだけでも授業の変化が見られるようになる。



・『深い学び』について、いくつかの授業例が紹介された。どの授業においても生徒間での意見交換が活発になされていた。また、まとめの内容においては長い文章となっていたが、内容の深まりがそれほど見られなかった。そこで、それぞれの生徒への講師・先生の声かけによって、学びがより一層深まっていく様子が紹介された。

・いくつかの知識がつながることによって、汎用性が増し、生きた知識となるため、長期記憶となっていく（活用・発揮による精緻化）。

・活用・発揮は言い換えれば、いかに音声言語や文字言語を使うか、アウトプットするかである。つまり、授業において話すことや書くことを潤沢かつ質高くやるかであり、アクティブラーニングにもつながっていく。

・音声言語はかなり広がりやすいが、失われやすい。一方、文字言語はかなりシャープで自覚しやすく、共有もでき蓄積ができる。よって、授業は音で広げ、文字で刻む必要がある。

・「深い学び」を実現する一番の近道は、授業でのアウトプットを文字言語で行うことである。

→文字言語の取り組みの段階としては、①「まず書く」、②「長めに書く」、③「質高く書く」の順に進めていくとよい。

・デジタル学習基盤は、資質・能力の育成や深い学びにとっても有効であり重要である。例えば、アウトプットにおいてキーボード入力すれば、入力情報は圧倒的に豊かになり、長めの文字言語、深い学びになると考える。

・デジタル学習基盤で「深い学び」が実現する学習指導の例として、「StuDX Style（スタディーエックス スタイル）」のサイトが紹介された。

・繰り返し反復を否定するものではないが、その反復にも工夫が必要である。

→実際、生徒たちに授業でインプットの時間（教師の説明）とアウトプットの時間の割合がどれくらいが良いかを聞くと「アウトプットで授業の半分以上の時間を使ってほしい」と言うが、インプットも必要だと返答している。生徒自身もインプットの重要性は感じていることがわかる。教師の語り方などがより重要となってくる。

・子ども一人ひとりが個別に学ぶ場面や、協働する場面が準備されていたとしても、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」につながっていなければ、本末転倒になってしまう。

・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、それ自体が目的化することがないよう、「主体的・対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成という出発点に立ち戻って考えることが大切である。

・学びを深めるための対話的な取り組みにおいて、「子どもの主体性」と「教師の指導性」は反するものではなく、相乗効果で高めるものである。

・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくりの参考として、サポートマガジン「ミルミル」についての紹介があった。

